

日本基督教団 東中国教区ニュース

NEWS

東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒770-0088
倉敷市鶴形一丁目五
倉敷キリスト会館内
TEL 086422-1780

説教「つながりの讚美」

倉敷教会 牧師 中井大介



倉敷教会 中井大介 牧師

私には主日の朝になると必ず思い浮かべるイメージがあります。それは、この朝、地球の自転につれて夜明けの境界線が移動するところから主を讚美する祈りと歌声が響きはじめ、やがて二四時間かけて世界各地で主を礼拝する群れによる信仰告白のバトンが継承され「つながっていく」というイメージです。それは何十年にもわたり、この鳥取・岡山の諸教会や主を礼拝する群れにおいて、ほぼ同時そして

多発的に捧げられているものです。コリントの信徒への手紙第一「ひとつの体、おおくの部分」の御言葉のとおり、主の体を形成する部分としての教会は尊い存在として生きているのです。東中国教区の諸教会もまた主の体を形成する尊い一部分であり続けるのです。

私たちの教会は、それぞれに固有の課題の中で苦しんでいます。財政的な苦しみ、信仰継承についての悩み、少子高齢化、牧師の不在など。もし私自身が指先に怪我をしたとして、私はその指先の傷にさえ鋭い痛みを覚えることでしょうか。ましてや主の建てられた教会ならば規模を問うまでもなく痛みは大きいものです。教会が孤独に苦しむとき、私たちは無関心でいられるでしょうか。さらにいえば、教会につながるもつともちいさな一人のうめきに、私たちは無関心でいられるでしょうか。神は細部に宿りたもう。ならば一番ちいさいところに発せられるうめきこそ、主が近くにいらしてくださいる場所なのです。

インマヌエルの主を信じる共同体。それが教会です。神われらと共にいましたもう。この言葉は実現した言葉です。ひとつの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、ひとつの部分が尊ばれば、す

説教「つながりの讚美」	1
西日本豪雨特集	2
西平島地区の災害支援に参加して	3
「生き生き教会づくり」に参加しました「でもねえ」その前に	4
「20年振りに教師を迎えて」	5
「礼拝音楽の集い」岡山県西部地区「日夏期学校」待ておられる皆様	6
教会紹介 天城教会	7
「辺野古報告」(その2) 教区ホームページ案内	8

べての部分が共に喜びあえる主の体の建設事業に、私たちはいままも参加しています。あなたがキリストの体であり、一人一人が大切な部分なのです。その一人一人には、主との出会いの特別な物語があるのです。教区・教会・信徒・教師のつながりには、すでに注がれた恵みがあります。この奇跡を語りつづける営みを、私はまだ止めることができません。神に感謝。



倉敷教会 絵：金斗鉦

西日本豪雨特集

「西日本豪雨災害

「教区のはたらき」

東中国教区議長 大塚 忍

七月の西日本豪雨はわたしたちの教区にも甚大な被害をもたらしました。被災をされた方々には心からお見舞いを申し上げます。教区では七月十二日に三役会を開催。「YMCAせとうち」と共に支援、募金活動を行っていくことを確認しました。翌日十三日超教派のキリスト教団体「岡山宣教の集い」から「西日本豪雨災害」に伴う岡山『災害支援室』立ち上げについて」の会議に招かれ出席しました。この会議によって「岡山キリスト災害支援室（岡キ災）」が設置されました。後日、教区はこの団体とも連携しながら復興支援を行っていくことを決定しています。

岡キ災では、朝七時三〇分に事務局の広江聖約教会に集まり祈りを捧げ被災地へと向かって行きます。九時～正午、十三時～十四時までがワークの時間です。わたしは高梁の高齢者施設、真備地区でボランティアをさせていただきました。岡キ災のボランティアリーダーは、手際よく的確に指示を出しながら作業をされています。けれども、ワークのスピードを緩めて被災者の方々の声に耳を傾けておられる

ともありました。目に見える復興と同時に、被災者の方々は精神的な復興もなされていかなければなりません。そのためには作業のスピードを緩めることも重要だと感じました。今後、支援の形は少しずつ変わっていくことと思われませんが、教区は支援を継続していくこととなりました。祈りながら「わたし」にできることを考えていきたいと思うのです。



岡キ災の活動に参加して

「西日本豪雨災害をおぼえて」

岡山博愛会教会 牧師 渡辺真一

七月六日、降り続く雨がなお一層激しくなり、夜にかけてわが家の前の旭川は急激に増水し、夜十一時の段階で旭川中島の家々の土台に水は達し、堤防を越す水位まで一・五mほどに迫りました。予報ではまだ増水する見込みで、近くの教会員と避難所へ向かうこととなりました。これは災害が起こる、と直感した夜でした。

私の近辺は無事でしたが、この豪雨により、近隣では岡山市・倉敷市での河川決壊・氾濫が発生、また各地で土砂崩れが発生し、災害が現実となって私たちの前に突きつけられました。尊い命が失われ、大切なものを失い、日常の営みが中断せられる、あの災害の現実が起きたのだと、深く心が痛みました。

避難所で迎えた翌朝、まだ避難指示が解除されていない段階でも、水害が発生しなかった町は普段と変わらず、店は開き、土曜出勤する人の姿がありました。せめて避難指示が解除されるまでは安全確保が先じゃないかと、私は違和感を憶えたものです。さりとて、それぞれの日常を守る以外にどんなことを選ぶことができるのだろうか、とも思いつつ、私自身はただただ心を構えて安否確認と緊急の報に備えて過ごすものでした。

その後、岡山県下でも早々に、各所での対応や、猛暑の中での復旧・支援活動が各地で展開されていきました。教会関係では、教派を越えてこ



7月7日の朝 旭川の小橋

の災害に向き合っていく体制も作られていきました。すぐそばに被災地がある、そして多くの人が動いているということや、普段の日常の営みが続いてしまうこと自体に、罪責感をも抱く日々でありました。そうして、何ができるといふことはなく、ほんの一部分であっても災害の現場を見て知ることはできるだろうと思ひ、御津方面、真備方面でのボランティアに参加しました。そこで、あらためて災害のもたらした見える被害と見えない痛みを痛感させられました。その中で、見える業と見えない業とを、わずかであっても積み重ねながら、隣人としてあり続けたいと今も願っています。その後、さらに北海道の地震、各地の台風被害など災害が続いています。大きな被害の前でなせる業の小ささを私自身痛感させられる中で、災害のいたみを負って歩んでいらっしやる方々を案じ、祈りを重ねています。

西平島地区の災害支援に参加して

和気教会 牧師 延藤好英
三石教会

七月六日・七日の西日本豪雨災害で、岡山市東区平島地区では、二千二百三十軒が浸水被害に遭いました。被災して間もなく現地に入ったのは、NGO法人「チームはるはる」でした。メンバーの一人が被災者であったことがきっかけのようです。わたしも車で三十分の近さであったので、参加するようになりました。最初は、使えなくなったものの搬出作業でした。お家の方に選別していただいて、近くの公園に運びました。濡れた畳を運び出し、床板を剥がし、床下の泥をかき出す作業や草刈りなど、酷暑の中での作業となりました。上道公民館に開設されたボランティアセンターには、日本各地から老若男女のボランティアが毎日集まり、そこから西平島地区に派遣される人たちもいました。またわたしのように個人的に直接参加する人もいました。

八月末からは、日本基督教団経由で、台湾基督教長老教会から大工さんたちが来て下さいました。根太ねだから床下の土を見て暮らしていたお家の方が、大工さんたちによって床が張られていく様子を見て、「家の中の部屋が無くなって、土ばかり見ていたら、これからのことが不安でならなかったけど、床が張られていくのを見て希望が湧いて来ました。本当にありがとうございます」とお話しくださいましたのが印象的でした。九月四日まで、台湾からの大工さんたち

は入れ代わり立ち代わり十人ほどが働いてくださいました。西平島の支援活動は一区切りついた感じですが、生活再建のために、まだソフト面でもハード面でも丁寧な対応が必要なのではないかと思ひます。日本基督教団は東中国教区を窓口として、岡山キリスト災害支援室、YMCAせとうちと共に、これからは倉敷市真備地区に関わっていくとのことですが、日本全国で災害が頻発している今日、わたしたちは、比較的災害の少ない地域の住人として、①ボランティアを派遣するための準備や訓練を積む必要があるのではないのでしょうか。②また、避難が必要の方々を迎える場所を提供する準備をする必要があるのではないのでしょうか。③また、教会が、災害時のボランティア拠点となることも想定して具体的な備えをする必要があるのではないのでしょうか。



岡山市東区平島地区で一緒にしたボランティアの方々

「生き生き教会づくり」に参加しました

津山教会 牧師 田中馨子



講師 飯塚拓也先生 (茨城県・竜ヶ崎教会)

九月二十四日(月・休)、岡山教会を会場に、岡山県東部地区CS担当者主催で、生き生き教会づくり『この一人のために』伝道のためのキリスト教共育』としての集会が開催されました。講師は竜ヶ崎教会(茨城県)牧師の飯塚拓也先生でした。参加者は五地区・十二教会・三十五名でした。

集会の第一報の「畑と田んぼに囲まれた地方教会 茨城県竜ヶ崎教会」も大人もひとつになつてにこにこ笑顔・活気ある礼拝・喜ばしい労苦 神の国のひみつを飯塚拓也先生により楽しく学びます!」の言葉に魅かれて地区をこえて参加させていただきました。

大人も子どもも共に守る礼拝を試行錯誤している私にとっては、視点を変えることなど多くの学びが与えられました。

子どものプログラム・制作などが主日礼拝の中で生かされたり、無理なくつながっているような工夫、礼拝の讃美歌の選曲の仕方、礼拝における奏樂者の役割、礼拝での一人一人の主體的な役割分担など学びを深めました。

大人が一生懸命向き合っている姿、その先にあるものが何であるのかということ子どもたちが受け取っていただけることの大切さを再度分かち合うことができたと思います。

「教会って?」イメージ それは「神の国がここにーキミはOKだという大いなる受容 笑いとユーモアに満ちた社会にアンテナを張って隣人の痛みに敏感である教会」という飯塚先生の言葉をどのように与えられた場の賜物を生かして深めていけるのか、模索を続けていきたいと思えます。



『どもね!?!』その前に

倉敷水島教会

信徒 濱上 進

九月十六日(日)岡山県中部地区ヨルダン会(男性の会)主催の研修会に、主日礼拝を終えた中部地区八つの教会から玉野スポーツセンターに教師と信徒並びに夏期伝道実習神学生を含め総勢四二名が集いました。

この研修会は今期の教区総会で決議された「宣教強化の実質化」を受けて、地区が直面する課題を共有し直接的に協働の関りを持って歩むためにどうすればよいかを話し合うために開催したものです。

基調講演は「『協働する教会』」分ち合いの饗宴」と題して倉敷教会の中井大介牧師が多彩な引出しを開けながら、新しい時代の宣教の展開に変化と改革を起さなければならぬと訴えられました。元々はヨルダン会メンバー(男性)だけが話し合う場と考えて計画していましたが、教会の働き人である女性たちも放っておけない課題であると積極的に参加を申し出て一九名もの女性が加わったのは、ことの深刻さと関心の強さを物語っています。講演後の座談会では四つのグループに分かれて「意見を否定せず発展的な議論」をモットーに参加者全員が熱く語り、時の過ぎるのを忘れて盛り上がりました。東中国教区の現状もさることながら、現に、私たちの足元に迫っている教勢の低下、働き人の高齢化、ひいては教師招聘の可否をめぐる危機感の中で、協働とは何か、何を指すのか、何が出来るのかなどを語り合い、一例として



ヨルダン会研修会 基調講演

複数の教会が共同牧会を
 ・ 高齢信徒のための介護福祉施設を
 ・ 協働でオルタナティブな宣教を担う
 ・ 愛ある所に教師はともに働く覚悟
 ・ ローカル教会は小さいが貧しくない
 ・ 意識して探せば自教会の良いところが
 ・ 信徒夫々の得意なことを活かす
 ・ 専任教師がいなくても教会は残る
 ・ 笑顔で行き、笑顔で帰る家庭伝道
 ・ いろんな若者の居場所を大切に
 等々、アイデアや想いを描きました。

『でもね!』、その前に突破口があるし、それを突破する努力を怠らず神さまを信じる群れならば必ず道は開ける。さらに私たちの地区には隣の教会の危機に無関心でいられないというきずなと祈りの強みがあり、それを活かして、このような研修の場を重ねて更に具体的な活動へと繋げていくことを目指したいと思います。

**「20年振りに教師を迎えて」
 苦難と喜び**

久世教会
 信徒代表 武藤 勇

「聖日礼拝を守りたい。」これは久世教会・勝山教会の長年の祈りでした。けれども、無牧の時が余りに長く続きますと、当然のように、高齢化は進み、教会力は失われてゆきます。勝山教会は、とうとう信徒一人になってしまいました。そして、久世教会も同じ道を歩みかけていました。

その一方で、神様はその厳しい試練を通して、私たちに大切なことを教えてくださいました。神様に向き合う姿勢や、教会・礼拝の大切さ、聖書の力、また、毎週聖日礼拝が守れることも、毎月聖餐に与ることができることも、決して当たり前ではない、そのことも学ばせていただきました。信徒の家を転々として、初代の家の教会を経験することが、私たちに必要だったから、神様はあのような試練を与えられたのだと思うのです。

元来、キリスト教は苦しみの中に宣教は進んでいきます。苦節二〇年、「そろそろ牧師招聘を考えても良いのではないか。」と、延藤牧師から声をかけられました。しかし、「こんな所に来てくださる方がおられるのだろうか」と、正直、不安な思いの中で牧師招聘の準備でした。

すると昨年秋、宮本裕子伝道師が紹介され、話ほとんどん拍子で進み、今年のイースター礼拝から久世教会主任担任教師として迎えることができました。

た。これもすべて神様のご計画の内のこと。必要なところに必要なものを遣わす。全て神のなせる業です。いろいろな苦しみと出会い、忍耐もありました。が、それらすべては感謝に変わりました。その気付きのために、久世教会の私たちには、二〇年もの歳月が必要だったのだと、確信しております。

これからは、新たなスタートです。感謝!

(二〇一八年七月十六日 記)



2018年7月3日 久世教会 勝山教会 宮本裕子伝道師 就任式

「礼拝音楽の集い」

教育委員 森嶋 道

九月十七日(月・休)、鳥取新生教会で礼拝音楽の集いを行いました。(参加者二名)

午前中は中村証二先生(普通寺教会オルガニスト)による講演で、ご自身の体験から生き生きと語られました。午後は参加者が課題曲を練習する時間となり、熱のこもった指導が続きました。

十回目を迎える礼拝音楽の集いも一つの節目を迎え、新しい展開を視野に入れております。中村先生、会場教会の山田先生ご夫妻、そして、神様に感謝をしています。



2018年度 第10回「礼拝音楽の集い」

岡山県西部地区一日夏期学校

「待っておられる神様」

鴨方教会 妹尾正昭

今年度は西日本豪雨のため、例年行ってきた遙照山でのキャンプが、進入路の崩落等で危険が伴うと判断して山でのキャンプは中止しました。その代わりに「一日夏期学校」として、鴨方教会を会場にして午前九時から午後四時まで行いました。

プログラムは例年に比べてかなり短縮しましたが、冷房の効いた室内での開催となり、快適に楽しく実施出来ました。内容は、開校礼拝、分級、スイカ割り、キッズクッキング、ゲーム、感想文書き、閉校のお祈りと結構盛りだくさんでした。

開校礼拝は今年度の主題「待っておられる神様」と題し、(聖書はルカによる福音書十五章十一節から三十二節)地区長の倉橋克人玉島教会牧師にして頂きました。その後分級と続けそれからは楽しい行事に入りました。

スイカ割りを礼拝堂にブルーシートを敷き詰めて行いました。普通スイカ割りは暑い屋外の行事ですが、冷房の効いた室内でと言うのは前代未聞です。皆涼しい中で張り切ってワイワイ言いながらやりました。何度も挑戦する子供もいました。

キッズクッキングは「やきそば」班と「おにぎり」班に分かれて大人の助けを借りながら子供達で作りました。お腹一杯昼食を摂ることが出来ました。

お楽しみ会のゲームは大型スクリーンでチームに分かれて競い合いました。

今年の参加者は、急遽変更したにもかかわらず、子供が九名、大人が十七名の参加を与えられ無事楽しく実施出来ました。特に今まで教会にも夏期学校にも来たことが無かった小学五年生の女の子三名の参加者が有り恵まれました。何とかこの子供達に教会に馴染んでもらえるように祈り、努力していきます。来年度の山でのキャンプを祈りつつ・・・。



「1日夏期学校全員集合」



教会紹介

・天城教会・

牧師 田中寿明



召天者記念礼拝での写真

天城教会は、一八八四年十一月十九日に設立されました。天城教会からキリストの福音が倉敷市内に広がり、日本キリスト教団倉敷教会や味野教

会（現在の日本キリスト教団児島教会）が設立されました。天城教会は、礼拝を大切に守りながらキリストの福音を宣べ伝えていきます。会堂は、一八九〇年に建てられ、一九八一年岡山県及び倉敷市から史跡指定を受けています。古い会堂の窓ガラスは、現代の慣れているようなフラットなガラスではなく、会堂建築当時、ガラスの製造の技術が足らなかつた為に、歪みやゆらぎ、泡などの不純物が入ることによって、レトロ感あるガラスのままです。完全に割れてしまつてはまらなくならない状態以外では、取り換えられていません。二〇一三年二月に、会堂の外観の塗り直し事業を、岡山県と倉敷市から支援を受け、白いきれいな外観になっています。また、二〇一六年にサミットの分科会が倉敷市で行われるとのことで、教会のリーフレットを和英併記にしたものを作成しました。

また、二〇一三年度からは、教会の近くにありま

す岡山県立天城高校の社会貢献活動という授業で、年二回、延べ四四〇名も高校一年生が教会に来てくださり、教会の歴史を知って下さり、教会敷地内の草刈などの奉仕をして下さっています。秋も四〇名が来られます。

一九七三年七月に山村好美牧師が召天されてからは、無牧の時代が一九九六年三月まで続いています。その時は、礼拝出席される信徒の数も、一〜三名位でありましたが、佐藤菊雄牧師が招聘されてからは、少しずつ信徒も増えて、一時期は二六名の現住陪餐会員にまで復活しました。教区から教会強化費を受給することによって、二〇一〇年度からは佐藤待子牧師、二〇一三年度から現在まで田中寿明牧

師が主任牧師として遣わされています。

また、二〇〇三年度に倉敷西教会との合併も決議され、教団承認後二〇〇四年四月登記が完了し、共に信仰生活を歩んできました。

礼拝は、牧師のメッセージはもちろんですが、牧師が休暇などの時、クリスチャンが担当する事を前提として、信徒の奨励や立証を用いた信徒礼拝をしています。

ただ、高齢化にともない礼拝に出席することが困難になられたり、会員の召天に伴い現在一九名の現住陪餐会員、礼拝出席者も十名前後になっています。現在、礼拝出席されている方の中では、求道中の方がおられ、他の教会の信徒ですが、礼拝に出席されている方が複数おられます。

これからもキリストの福音を宣べ伝えて行ける教会でありたいと祈っております。



礼拝堂

「こんにちは」のお部屋

「辺野古報告」(その2)

倉吉教会 牧師 柴田 彰

那覇空港に着くとすぐ私たちはレンタカーを借りて沖繩本島南部を目指しました。北部の辺野古に行く前に今回は沖繩県平和祈念資料館、平和記念公園の平和の礎、糸数アブチラガマを見学し沖繩の地上戦について学び、その日の夜に名護に行きました。

平和の礎には沖繩戦で犠牲になったすべての人の名前が刻まれています。犠牲者二〇万人余のうち沖繩の民間人は一〇万人を越えます。石碑には軍人や民間人、国籍の区別はなく、例えばアメリカ、イギリス、台湾、北朝鮮、韓国の犠牲者もその名が刻まれています。死は平等に扱われていました。

資料館では、映像や写真パネル、一〇〇人以上の沖繩戦体験者の証言などを通して壮絶を極めた地上戦の実相を知りましたが、想像力を働かせないと犠牲者一人ひとりに家族があり親しい友人がいたこと、生き延びても地獄のような中を戦後も生き続けたことのリアルティを心に浮かび上がらせることはできません。

沖繩の地上戦は本土決戦の時間稼ぎでした。そのため沖繩出身の軍人だけでなく住民が根こそぎ動員させられ、命が紙のように軽く扱われた局地戦でした。避難したガマから軍優先で追い出され米軍の銃弾の中をさまよった住民がいます。日本の軍人たちは何を守ろうとしたのでしょうか。日本軍が壊滅した後、住民が避難させられ、その間に米軍が基地を造成していき

ました。

敗戦の翌年には日本国憲法が公布されますが、それを審議した帝国議会には沖繩の議員はいませんでした。一九五一年のサンフランシスコ講和条約によって日本は主権を取り戻しますが、沖繩はそのままでした。独立を果たした日本の本土の基地は縮小されましたが、沖繩の基地は増強されていきました。沖繩の基地施設は政府が提供したことになっています。沖繩の施政権の返還はその二一年後でした。その間に朝鮮戦争、ベトナム戦争があり、沖繩から米軍の爆撃機が出撃していきました。

人の命、血と汗で守り育てられた土地、それらをも簡単に扱う当時の政府今の政府の対応が浮かんできます。沖繩に本土の平等はありませんでした。あるときには併合して利用し、あるときは捨て石にし、あるときは切り離して保身を図ってきた本土の歴史があります。その根底には何があるのでしょうか。存在への尊厳が欠如しています。共生ではなく差別の歴史が繰り返されています。

辺野古のゲート前に座り込んで、隣の沖繩の老人から学ぶことは、命の尊厳です。平等に平和を求め、平等に安全保障について考える、この当たり前さをゲート前で学びました。



戦後の沖繩を生きた少年少女の物語です。

教区ホームページご案内

教区ホームページは、教区や各教会の宣教活動の促進を図ろうとしております。最新のお知らせ、教区教会紹介、教区機関組織、各種資料、教区ニュース誌アーカイブ、リンク集などをご覧できます。また、教区ホームページに教会の紹介記事が閲覧できない教会の場合は、いくつかの項目を回答してお知らせいただければ、迅速に掲載します。すでに掲載されている教会の場合も、更新すべき項目や新しい情報などがあればお知らせください。

編集後記

町内の回覧板に目が留まりました。地域の中学校のグラウンドを集合場所とする「合同防災訓練」の案内です。毎年同じ時期に届いていたはずなのですが、見過ごしてしまいました。十一月一日(木)の朝九時五〇分、牧師としての責任を自覚しつつ初めて参加いたします。木曜日は祈祷会の時間に重なりますが「合同防災訓練」を優先です。今号の二〜三頁は、台風で延期となった「宣教会議報告」に変えて「西日本豪雨特集」としました。祈りつつ。(G記)

★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時〜午後九時
電話番号 ○九〇〇一三三〇一八七三〇